

### Ⅲ. 3つの柱への取組の報告

#### 1. 授業の充実

今年度は、教員免許の取得を希望するすべての学生の必修授業である「障害児の発達と教育」(後期開講分)における授業改善を行った。具体的な改善点は、以下の通りである。

- 後期の授業担当者4名が共通のテキストおよびシラバスを用いて授業を行った。
- これまで学生が実際に手に取ることが難しかったアセスメントについて、1コマの授業にて、実物を使いながら、講義・演習を行った。
- 事例のDVDを見ながら、個別の指導計画の一部を記入する演習を行った。
- 授業の開始時と終了時に特別支援教育に関するアンケートを実施することにより、学生の特別支援教育に関する実態を把握し、授業改善に生かすこととした。

以上の改善点に関して詳細を述べる。

#### (1) シラバス

シラバスは以下の通りである。

1. オリエンテーションとアンケート
2. 発達障害概説 (VTR)
3. 障害児の教育 (国際動向・制度・教育課程)
4. 障害と教育支援1 (知的障害と教育支援)
5. 障害と教育支援2 (自閉性障害と教育支援)
6. 障害と教育支援3 (ことばの障害と教育支援)
7. 障害と教育支援4 (発達障害と教育支援)
8. 障害と教育支援5 (感覚の障害と教育支援)
9. 障害と教育支援6 (重度重複障害と教育支援)
10. 特別支援教育の実践1 (通常学級における実践・通級による指導の実践)
11. 特別支援教育の実践2 (特別支援学級における実践・特別支援学校における実践)
12. 障害児のアセスメント (演習)
13. 個別の指導計画の作成 (演習)
14. 障害児の発達 (教育と発達・認知理論と発達・行動理論と発達・言語と発達)
15. 試験

1回目及び最終の授業においては、特別支援教育に関するアンケートを実施した。12回目および13回目の授業は、演習形式で行った。また、12回目の授業に関しては、大学院生3名ずつが、TAとして参加した。

#### (2) テキスト

共通して用いたテキストは、「子どもの発達と特別支援教育、渡邊健治・小池敏英・伊藤友彦・小笠原恵 著、ジアース教育新社 2009」であった。

目次は以下の通りである。

## 目次

### 第1章 発達

#### 第1節 障害児の発達と教育

1. はじめに
2. 障害者の権利の保障
3. 日本における障害者施策
4. 障害の分類と対応
5. 子どもの発達と教育

#### 第2節 認知の発達と支援

1. 子どもの認知の発達
2. 発達の最近接領域
3. 言語指示と行動調整
4. 問題解決と実行機能
5. 概念の形成と自発的調整
6. 発達支援の視点

#### 第3節 行動の発達と支援

1. 行動とは
2. 応用行動分析学の基礎
3. 応用行動分析額に基づいた支援

#### 第4節 言語の発達と支援

1. ことばを使いこなすことができるとき、わたしたちはどのような知識をもっているのだろうか
2. わたしたちはことばをどのようにして獲得してきたのだろうか。
3. ことばの獲得モデル
4. 語の意味の獲得
5. 言語発達を支援するための視点



### 第2章 障害児の教育

#### 第1節 特別支援教育の国際動向

1. はじめに
2. アメリカの障害児教育
3. イギリスの障害児教育
4. 国連等における特別支援教育の取り組み

#### 第2節 特別支援教育の制度

1. 学校教育法の特徴
2. 学校教育法における障害児教育に関する規定
3. 特別支援教育制度について

#### 第3節 わが国の特別支援教育の発展

1. 戦後の教育改革と特別支援教育
2. 学校教育法と障害児の教育
3. 盲・聾学校義務制実施と特殊学級教育の展開

4. 公立養護学校整備特別措置法
5. 養護学校の義務制実施
6. 障害児教育の改革の流れ

### 第3章 障害と教育支援

#### 第1節 知的障害と教育支援

1. 定義
2. 分類
3. 知的障害の障害特徴
4. 知的障害に対する教育支援

#### 第2節 自閉症スペクトラムと教育支援

1. 障害特徴
2. 教育支援
3. まとめ

#### 第3節 言語の障害と教育支援

1. 構音障害
2. 吃音
3. 特異的言語発達障害
4. その他の発達期の言語の問題

#### 第4節 発達障害と教育支援

1. 学習障害児の発達と教育
2. ADHD 児の発達と教育

#### 第5節 重度重複障害と教育支援

1. 障害の背景と特徴
2. 教育と発達支援について
3. まとめ

### 第4章 教育を支える支援科学の展開

#### 第1節 通常学級における実践

1. 通常学級における特別支援教育の体制
2. 通常学級における特別支援教育の実際
3. 教室でできる特別支援教育
4. まとめ

#### 第2節 通級指導教室における実践

1. 通級による指導とは
2. 通級による指導の現状
3. 通級による指導における指導方法：言語障害の場合

#### 第3節 特別支援学級における実践

1. 特別支援学級の教育課程
2. まとめ

#### 第4節 特別支援学校における実践

1. 盲・聾・養護学校全体の特徴

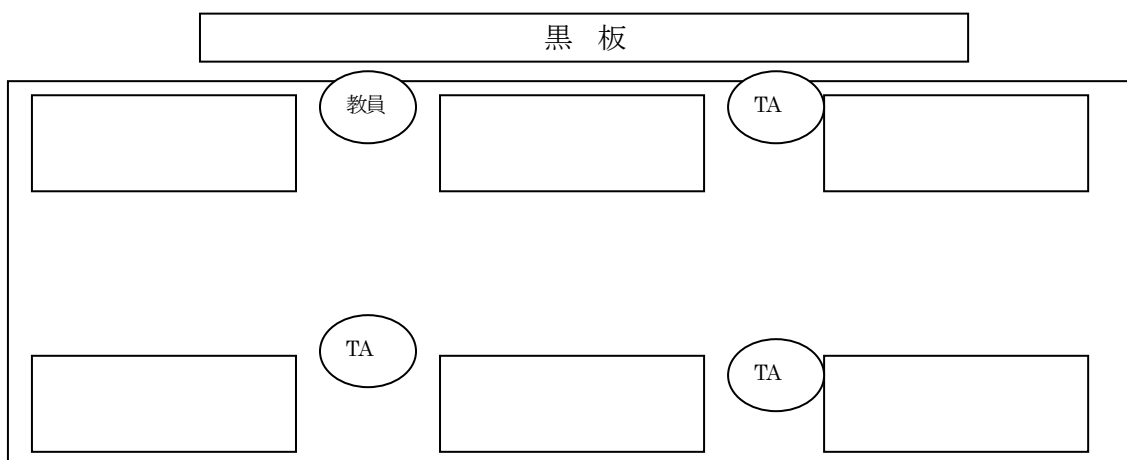
2. 特別支援学校の教育課程
3. 個別の教育支援計画及び個別の指導計画
4. 訪問教育
5. 交流及び共同学習
6. 特別支援学校の特徴

### (3) アセスメントに関する授業

以下の手順で、アセスメントに関する授業を行った。

1. 知能検査及び WISC-III の検査について(講義)(約 10 分)
  - ・ 知能検査で何を明らかにするか
  - ・ ビネー式検査における IQ の算出方法
  - ・ IQ(知能指数)の意味
  - ・ ウェクスラー検査の特徴、3つのタイプとそれぞれの適用年齢
  - ・ 検査実施上の注意事項(マニュアルに従うこと、評価方法など)
  - ・ 標準化や改定について
  
2. WISC-III について (講義)(約 40 分)
  - ①各検査項目の実施方法
  - ②何(どんな能力)を評価するための項目であるか
  - ③この項目の評価点が低い場合にどういうことが想定できるのか
  - ④他の項目との関連性
  - ⑤言語性 IQ と動作性 IQ、群指数について

\* 教員が呈示するタイミングで、TA にも器具を呈示してもらおう。それぞれの器具を学生に回して手にとって見てもらう。



3. 演習 (WISC-III、「数唱」課題と「符号」課題) (約20分)

- ・ 数唱と符号のやり方を説明する
- ・ 2人一組でペアーを組む
- ・ お互いの役割(検査者・被検査者)を決める
- ・ 開始(早く終わってしまったペアーは役割を交代する)

4. テスト(約10分)



#### (4) 個別の指導計画に関する授業

個別の指導計画に関する授業は以下の手順で行った。

1. 個別の指導計画について概略説明 (約 15 分)
  - ・なぜ個別の指導計画が必要なのか
  - ・個別の指導計画の作成手順
  - ・誰がいつどのように作成するのか
  - ・書式について
    - \*個別の指導計画の例、3種類配布
2. 事例について(約 5 分)
  - ・ 特徴等について説明
3. ビデオ観察(説明 10 分+ビデオ 30 分程度)
  - ・ 課題の説明
  - ・ 通級の先生が作成した個別の指導計画を配布。用いた書式は「日常生活、友達関係」「朝の会(意志の伝達・手段適応)」「国語、算数」「体育」「作業」といった 5 つの領域にわけて実態、願い、在籍学級担任の要望、目標、当面の指導、在籍学級での配慮について書かれていた。予め、記入されていることを参考にしながら、ビデオを見て、自分が在籍級におけるこの児童の担任であった場合に配慮すべき点について、すでに書かれていること以外に 1 つ、5 つの領域ごとで考える。
  - ・ ビデオの観察
4. 個別の指導計画の記入(30 分程度)
  - ・ 5 つの領域を示した記入用紙を配布。

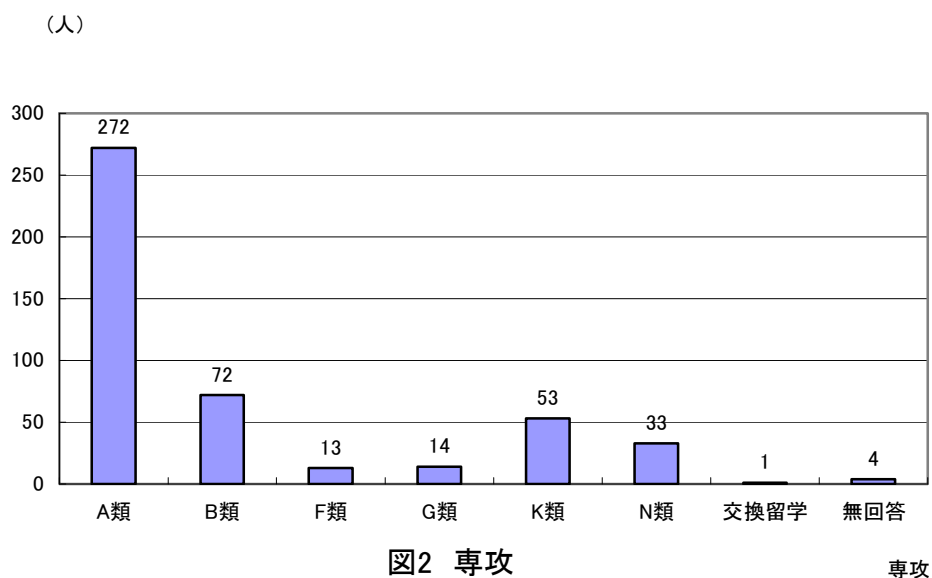
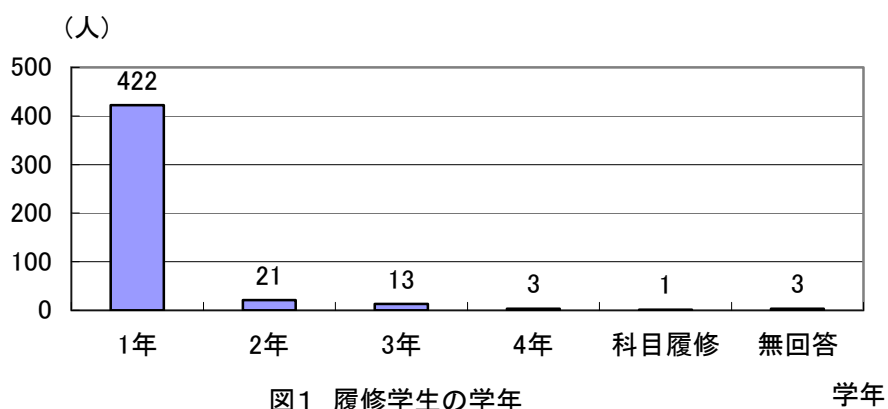
### (5) 特別支援教育に関するアンケート結果

「障害児の発達と教育」の授業の開始時と終了時に、この授業を受講しているすべての学生を対象として、同一のアンケートを行った。この「特別支援教育に関するアンケート」は、特別支援教育に関する30の用語について、受講生がどの程度知っているのかを3段階で回答してもらった。また、これまで障害のある人と直接かかわったことがあるかどうかについて、特別支援教育の免許の取得希望について、授業でどのようなことを学びたいかについて回答してもらった。

授業開始時に行ったアンケートの回収数は、463であった。終了時の回収数は、434であった。受講生は495名であり、授業開始時のアンケートの回収率は93.6%であった。

#### 1) 受講生の学年・専攻

受講生の学年・専攻について以下の図1および図2に示した。



受講生は、1年生が最も多く、また、小学校教員養成課程であるA類の学生が最も多かった。本学では、F、G、K、N類はそれぞれ教養系の学生であり、卒業単位として教員免許の取得は必要ない。教育系の学生が、全体の80%前後、教養系の学生が20%前後という結果となった。

## 2) 障害のある人とのかかわり

図3に授業開始時における障害のある人とのかかわりの有無について、図4にその関係性の内訳について示した。

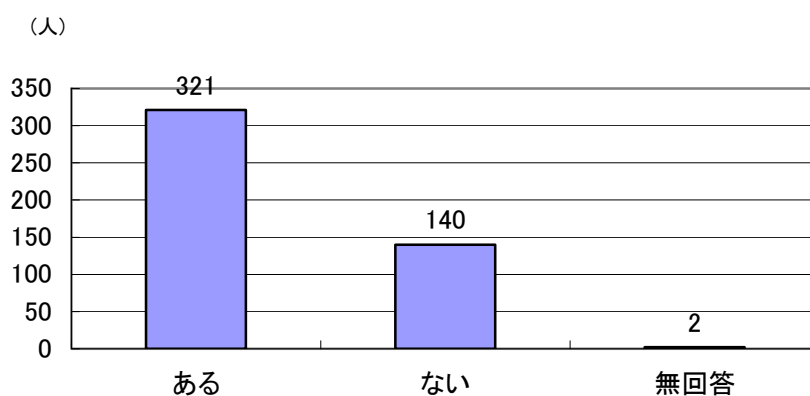


図3 障害のある人とのかかわりの有無

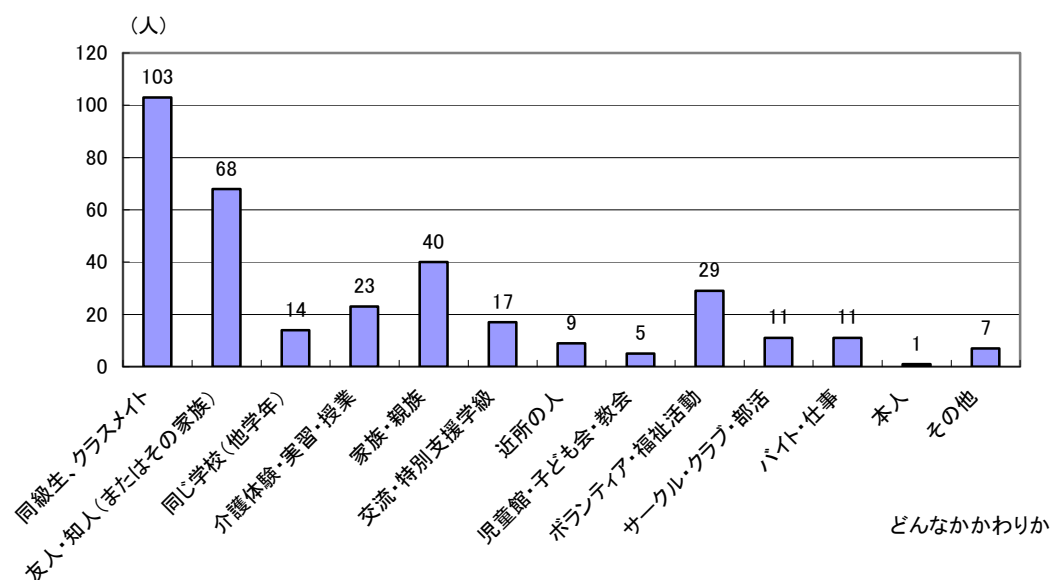


図4 障害のある人とのかかわり

授業開始時、これまで障害のある人とかかわりがあったと回答したものは全体の69%であった。その内訳は、同級生に障害のある人がいたと回答するものが最も多く全体の約20%を占めた。ここに、友人・知人、同じ学校、と回答したものを加えると、その割合は40%近くになった。



### 3) 特別支援教育に関する用語の認知度

特別支援教育に関する用語 30 種類について、どの程度知っているのか、「全く知らない」「少しは知っている」「よく知っている」の3段階の尺度で回答してもらった。

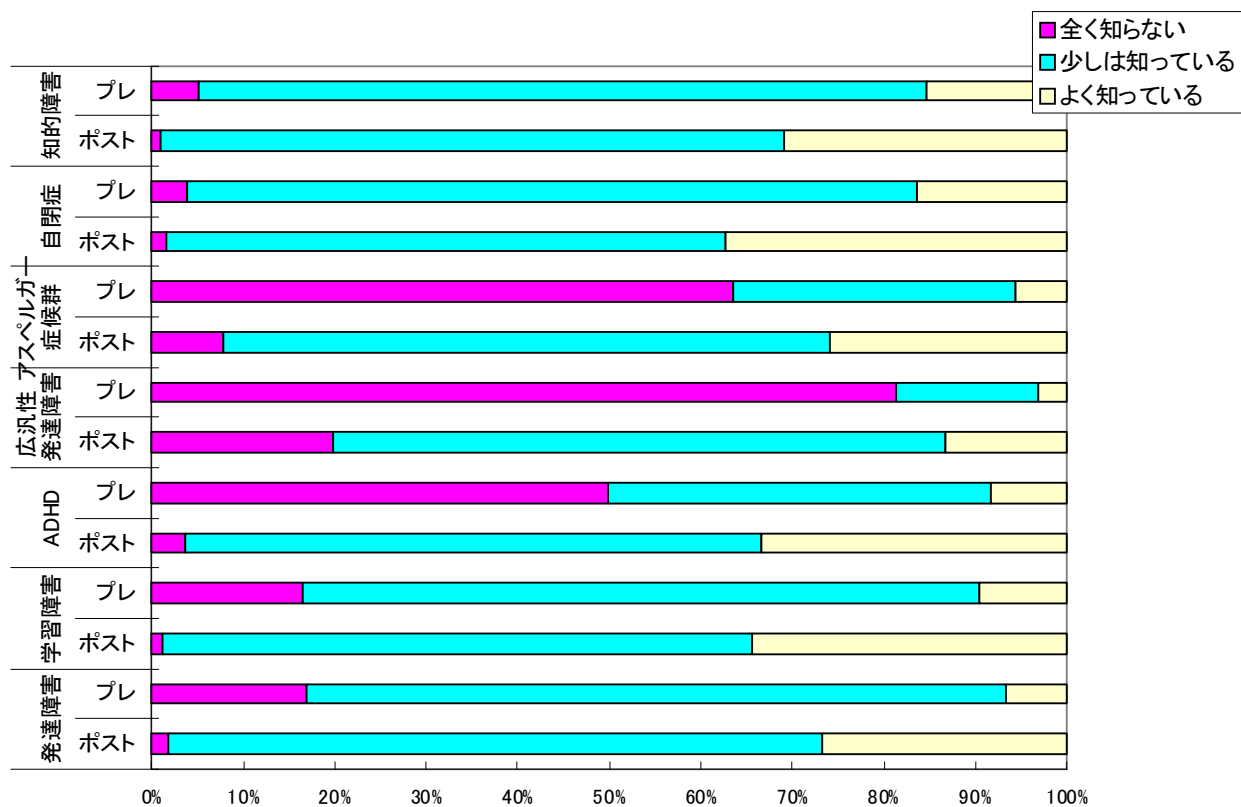


図5 障害に対する認知度その1

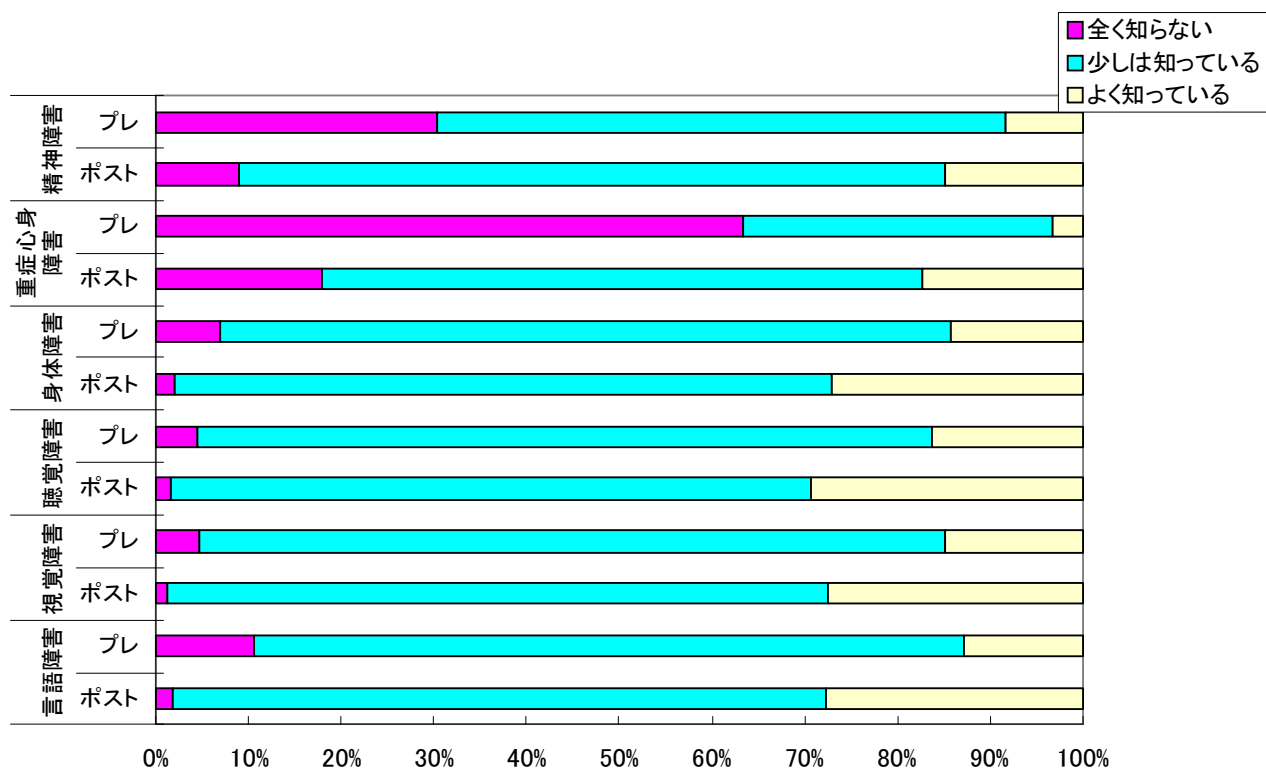


図6 障害に対する認知度その2

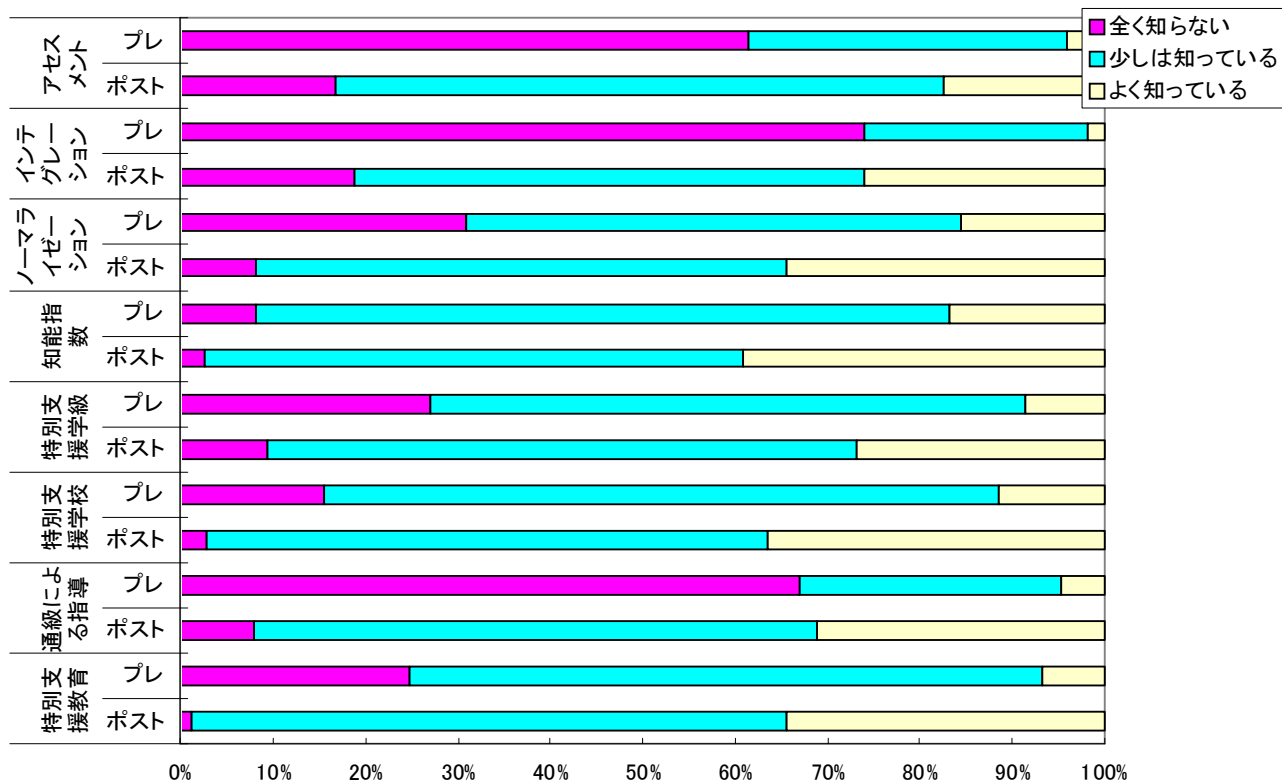


図7 特別支援教育に関する認知度その1

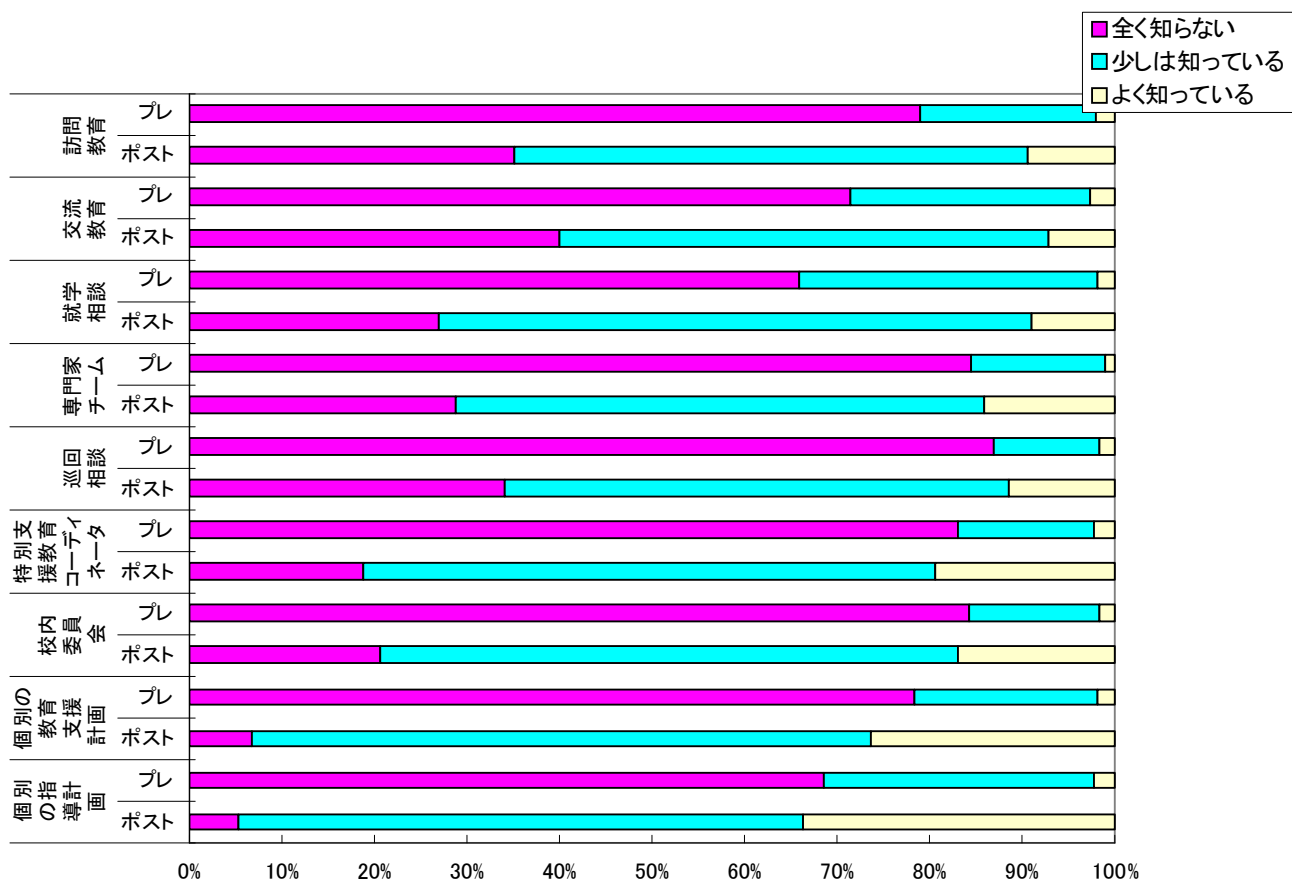


図8 特別支援教育に関する認知度その2

図5および図6に示したように示したように、授業開始以前は、50%以上の学生が「全く知らない」と回答した障害種として、「広汎性発達障害」「アスペルガー症候群」「ADHD」「重症心身障害」がある。授業終了時にこれらの障害種について「まったく知らない」と回答した学生はいずれも20%以下となった。

図7および図8に示したように、特別支援教育に関する用語についての認知度において、授業開始時に、80%以上の学生が「全く知らない」と回答したものは「個別の教育支援計画」「校内委員会」「特別新教育コーディネータ」「巡回相談」「専門家チーム」であった。「インテグレーション」「アセスメント」「個別の指導計画」「通級による指導」「就学相談」「交流教育」「訪問教育」については半数の学生が「全く知らない」と回答した。これらの用語のうち、授業終了時において、「全く知らない」と回答する学生が20%を下回ったのは「インテグレーション」「アセスメント」「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「特別支援教育コーディネータ」「通級による指導」であった。

授業開始時に最も多くの学生が「よく知っている」と回答したのは、「知能指数」であった。

演習を取り入れた授業を行った、「アセスメント」および「個別の指導計画」については、授業終了時に「よく知っている」と回答した学生が、それぞれ17%（開始時4%）、33%（開始時2%）と増えた。

#### 4) 特別支援教育の免許取得の希望

図8に、特別支援教育の免許取得を希望しているのか否かについての回答結果を示した。

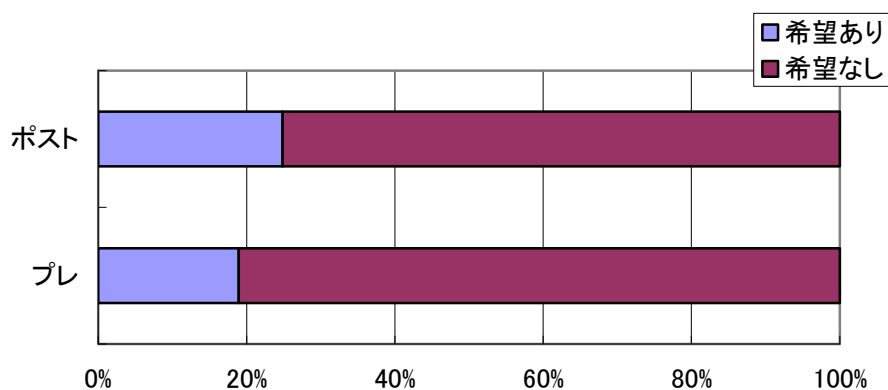


図8 特別支援教育免許取得の希望の有無

免許の取得を希望している学生は、授業開始時85名(18%)であったのが、授業終了時に101名(23%)と若干増加した。

### 5) 授業で学びたいこと・学んだこと

授業開始時の授業の中で学びたいことを示したのが図9である。

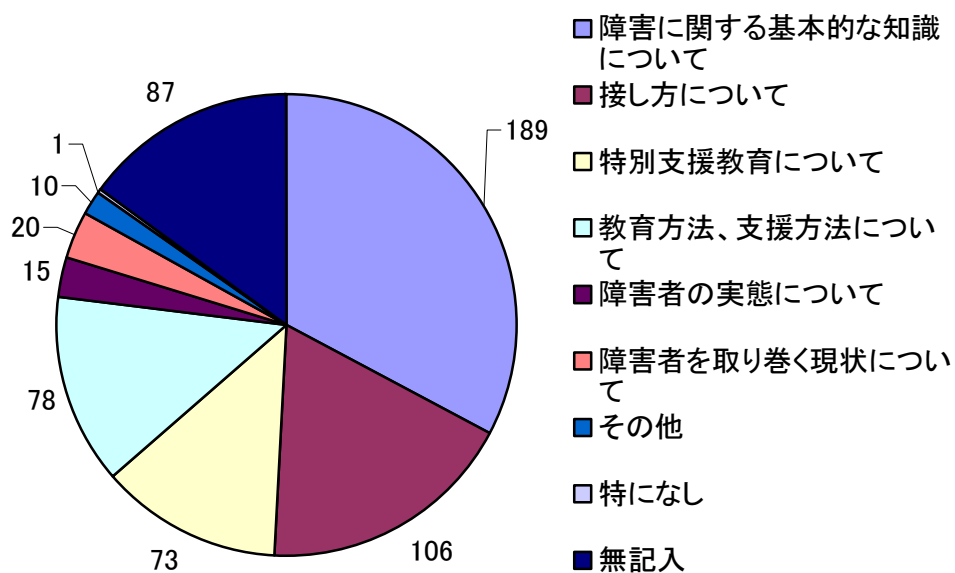


図9 授業で学びたいこと(自由記述)

授業開始時に学びたいこととしてあげられたのは、「障害に対する基本的な知識」に関することが最も多く、「接し方」「特別支援教育」「教育方法・支援方法」と続く。

## 特別支援教育に関するアンケート

このアンケートは、皆さんの特別支援教育に関する意識について、現在と授業後の2回、調査を行うことにより、授業効果をはかるとともに、授業改善のために用います。成績にはいっさい関係しません。ご協力をお願いします。

1. 学年、性別、所属について教えてください。( 年生) ( 男・女 ) ( 類 専攻(専修))
2. これまでの障害のある人と直接かかわったことがありますか?ある場合には、あなたとの関係を教えてください。  
( ある・ない )  
あるに○をつけた場合:(あなたとの関係 )
3. 以下の項目について、どの程度知っていますか?自分の現在の状態について当てはまるものに1つ○をしてください。

NO	質問	全く知らない	少しは知っている	よく知っている
1	特別支援教育			
2	発達障害			
3	学習障害			
4	ADHD			
5	広汎性発達障害			
6	アスペルガー症候群			
7	自閉症			
8	知的障害			
9	言語障害			
10	視覚障害			
11	聴覚障害			
12	身体障害			
13	重症心身障害			
14	精神障害			
15	ノーマライゼーション			
16	インテグレーション(統合教育)			
17	アセスメント			
18	個別指導計画			
19	個別の教育支援計画			
20	校内委員会			
21	特別支援教育コーディネータ			
22	巡回相談			
23	専門家チーム			
24	知能指数(IQ)			
25	通級による指導			
26	特別支援学校			
27	特別支援学級(固定)			
28	就学相談			
29	交流教育			
30	訪問教育			

4. あなたは特別支援教育の免許を取得したいと考えていますか?( はい・いいえ )
5. この授業でどのようなことを学びたいですか?

アンケートは以上です。記入漏れがないかどうかもう1度確認してください。ご協力ありがとうございました。

## (6) 授業担当者会議

「障害児の発達と教育」の担当教員による授業改善のための打ち合わせを以下のように行った。

- 1) アセスメント授業の打ち合わせ
  - ・ 授業の流れについての検討
  - ・ 演習内容についての検討
  - ・ テスト内容についての検討
- 2) 個別の指導計画授業の打ち合わせ
  - ・ 授業の流れについての検討
  - ・ 使用するDVDについての検討
  - ・ テスト内容についての検討
- 3) 前期授業担当者との打ち合わせ
  - ・ 前期授業担当者に対するG Pの概要説明
  - ・ 後期授業の報告
  - ・ これまでの前期授業の内容について
  - ・ 来年度の授業内容について

